

# 令和6年度 関屋小学校研究計画

関屋小学校学力向上部

## 1 研究主題

成長を自覚し、主体的に学ぶ児童を育成する授業（4年次）  
～自分の伸びや課題を自覚するルーブリックの活用～

## 2 研究主題設定の意図

当校では、令和3年度から上記の研究主題を設定し、授業改善を図ってきた。その中で、児童と教師がルーブリックを共有することで、児童がめあてを明確にもち、主体的に学習に取り組めるようになることが分かった。

一昨年度は、「思考・判断・表現」の観点のルーブリックで、教師と児童の間に捉えのずれがあり、それは共有の仕方に課題があったことが分かった。そこで、昨年度は、「思考・判断・表現」の観点に絞って授業研究を行ってきた。様々な教科で、「思考・判断・表現」に焦点づけた研究授業を重ねることで、提示の仕方や内容、場所について研究を深めることができた。そして、児童にとってもルーブリックが日常化してきた。

しかし、児童の姿を見ると、教師が提示した課題に対しては一生懸命に取り組むことができるが、自らの学習を調整したり自ら探究したりする力にまだ不十分さが見られるという問題点が残った。そこで今年度は、児童が自分自身の「問いや学習課題」をもって、主体的に学習を進められることを目指していく。ルーブリックで自分のめあてを明確にして学習に取り組み、振り返りを更に充実させることで、自分の伸びや課題を自覚して次時への意欲に繋げていく児童の姿を実現したい。

以上のことから、研究主題を継続するとともに、副題を変更することとした。

## 3 目指す児童像

児童がルーブリックを教師と共有して学習に取り組み、自分の伸びや課題を自覚して次時に繋げていこうとする姿

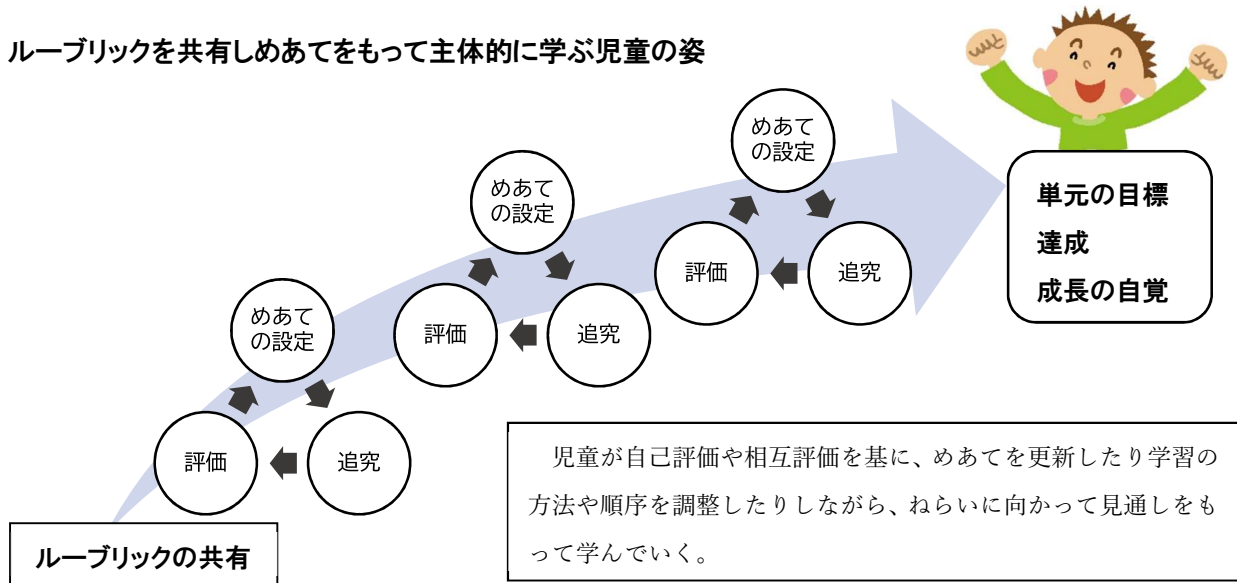
「ルーブリック」とは、単元や本時で身に付けさせたい資質・能力について段階的に評価規準を定めたものである。「ルーブリックを教師と共有する」とは、教師が考えるルーブリックを単元における適切な段階で児童に提示して共有することである。児童は、ルーブリックがあることで自分の学習目標や見通しを明確にもつことができる。

また、「自分の伸びや課題を自覚して次時に繋げる」とは、自らの学習をルーブリックで振り返ることで、自分が出来るようになった部分や足りない部分を知り、次の学習に向かって調整や修正をしながら学んでいくことである。

#### 4 研究仮説

教師が単元で身に付けさせたい資質・能力に合ったルーブリックを提示して児童と共有し、見通しをもたせ、ねらいに沿って学べるような単元構成や学習方法の選択、振り返りのさせ方を工夫することで、児童がねらいに向かって主体的に学び、成長を自覚することができる。

##### ルーブリックを共有しめあてをもって主体的に学ぶ児童の姿



#### 5 研究内容

##### (1) 単元で身に付けさせたい資質・能力にあったルーブリック

###### ① ルーブリックの設定

学習指導要領や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する資料を基に、単元で身に付けさせたい資質・能力を明確化する。それぞれの資質・能力に対して単元の評価規準を設定し、具体的な姿で3段階の判断基準を設定する。

(※児童の意欲を考慮して、レベル1も肯定的な表現にする。)

###### ② 本時のねらいとルーブリックの整合性を高める

本時のねらいは、「○○について、△△をしながら、(もしくは「△△して」) □□することができる。」と記述する。△△の部分には児童がどんな考えを使ったり、どんな力を働かせたりするかを明示する。

○○について、△△をしながら、(もしくは「△△して」) □□することができる。

○○・・・学習内容または学習課題

△△・・・思考スキルや態度に関する非認知系の知識

□□・・・その観点として表れる行為

尚、評価規準については本時のねらいの文末を「～している」あるいは、「～しようとしている」とし、本時のねらいの表現と同様にする。

## (2) 児童がねらいに向かって主体的に学ぶための単元構成と評価規準

単元導入段階もしくは単元の中核となる活動の前に作品例や単元末の状態を提示して、児童にゴールイメージをもたせる。その上でルーブリックを提示して具体的に目標を設定させ、「学びたい！ できるようになりたい！」と主体的に学習できるようにする。

次に、学習計画を教師が提示したり児童と一緒に考えたりして、方法の見通しをもたせる。そして、個に合った学習の方法を選択させる等して学びを進める。そして、単元の途中や学習の最後に、自分の学習を振り返って評価する場、つまり形成的評価の場を設ける。この時に、数値による評価だけではなく言語化した振り返りをさせたりすることで、「できたから、更に〇〇をしたい。」「今日は目標に届かなかったので、次回は〇〇したい。」等、次の学習に向けて学習への意欲をもったり調整したりする力を養う。

評価は、必ずしも1単位時間ごとに行う必要はない。内容のまとまりを意識して評価の時期や方法を工夫する。

## (3) 児童が学習課題を達成するための手段の選択（個別最適な学びへの第一歩）

ルーブリックの確認後、ねらいを達成するために児童が自分に合う方法や必要な物等を自分で選ぶための選択肢を示す。今年度は、個に応じた教材や方法を選択させて、学び方の素地をつくる。そして、最終的に目指す姿、「自分に最適な学びを自力で計画・実行できる児童の育成」に繋げていく。

## (4) 授業での教師の働き掛け

授業では、質の高い学習課題とまとめ、次時に繋がる振り返りを大切にする。しかし、必ずしも1単位時間の中に全てが含まなくてもよい。

これまでは、教師は主に板書で授業中の思考の流れが分かるようにしてきた。そして、児童は主にノートとタブレット端末を使って学習を進めてきた。タブレット端末の導入によりできることが広がっているが、児童の学習の軌跡が整理できるような使い分けを考える必要がある。

また、教師がいつ、どのような支援を入れるかが、児童の考えの形成に大きく影響する。ルーブリックで本時の自分の到達度を知るだけに留まらず、次時に繋がる振り返りのさせ方を工夫する。

※これまでの実践での効果的な働き掛け例

- ・ 2つのモデル文の比較による学習課題の設定
- ・ モデル動画の視聴による見通し
- ・ 三角ロジックや思考ツールを活用した自力解決学習
- ・ タブレット端末の共有機能を使った比較検討
- ・ ルーブリックで自己評価する前の他者評価や児童間での相互評価

## 6 研究方法

- ・年に一人1回研究計画に沿った授業を公開し、日常の取組や成果等を振り返る。
- ・研究授業や単元での児童の姿から、手立ての有効性や研究の方向性について検証する。
- ・大研授業では、外部講師を招聘する。

## 7 指導案の形式 ……HP用につき省略

## 8 研究授業の進め方

### (1) 研究授業の方法

	大研	小研
単元の検討	各グループ1本ずつ	大研以外の人
本時の検討 (模擬授業も可)	全体 授業日の3週間前まで	グループ 授業日の2週間前まで
指導者	外部講師	希望があれば外部講師
参観・協議会	全体	グループ
指導案の締切	指導者招聘：授業の10日前までに起案。1週間前に指導者に届くように送付。 指導者なし：授業の3日前までに起案。	
指導案の配付	全員	検討時はグループと管理職、研究主任。最終版は全員。
まとめ	授業後1か月を目途に作成	

- ・大研を年に2回。他は小研とする。小研はグループ研を基本とするが、別グループの授業研に参加してもよい。研究教科は自由。
- ・本時の検討は、指導案検討でも模擬授業でも可。  
【指導案検討】 授業者の説明後、質疑応答をして、本時の検討を行う。  
【模擬授業】 実際に使う教具や場を用意する。途中で区切る場合もあるが、前時の子供の実態を説明した後、実際の働き掛けを行う。
- ・指導案は、検討会前までに本時の展開前までを作成しておく。検討会は、大よその案を示し、検討会後に完成させる。

### (2) 授業グループ ……HP用につき省略

## 9 研究予定 ……HP用につき省略

## 11 研究のまとめ ……HP用につき省略